

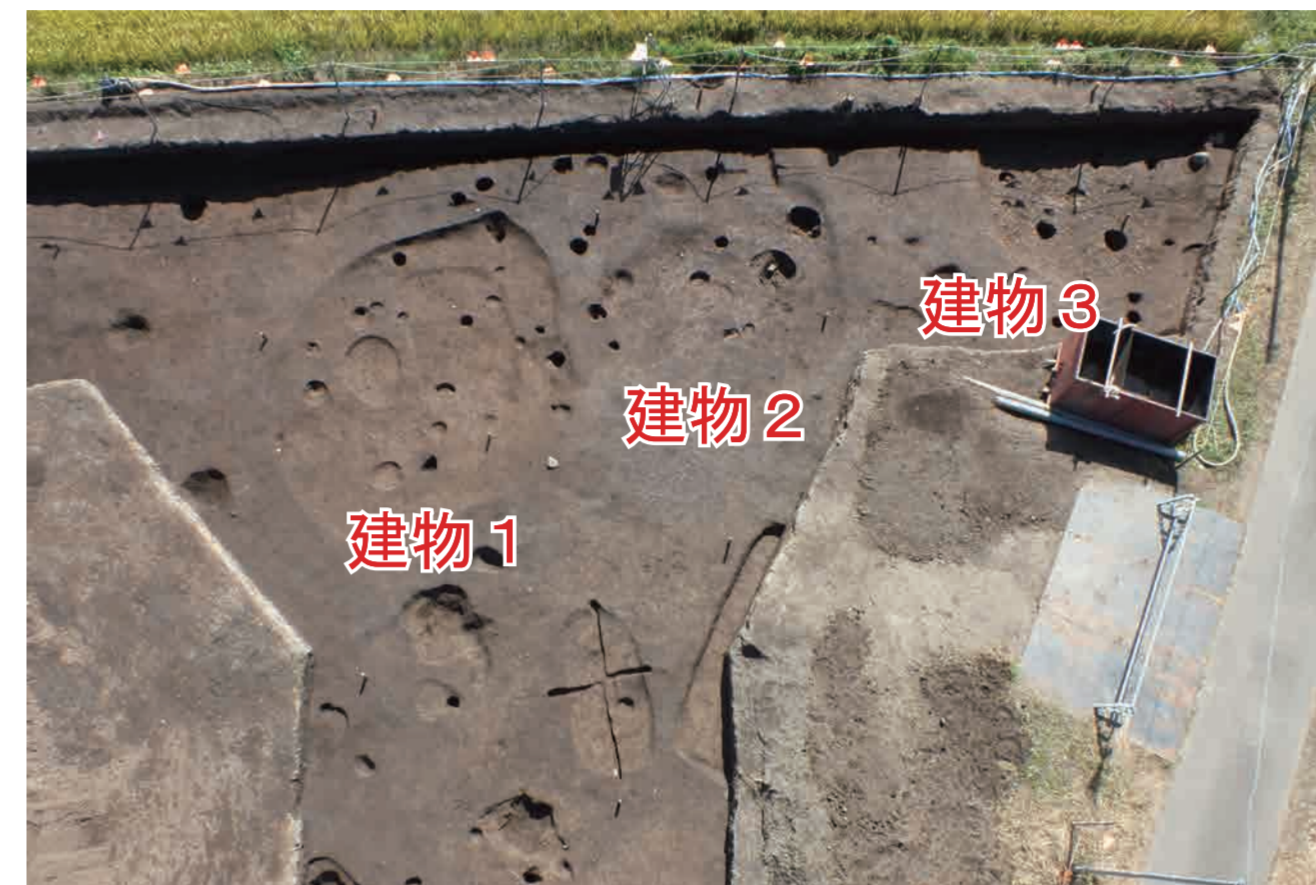
ごもいせき 御望 A 遺跡

ぎふしごも
岐阜市御望



発掘区

御望 A 遺跡は、東西を旧河川に挟まれる紡錘形の微高地上に立地しています。調査では、縄文時代前期、縄文時代中期、弥生時代後期～古墳時代前期、古墳時代後期、古代の5つの時期の建物を確認しました。



竪穴建物群

写真は、縄文時代前期後葉の竪穴建物群です。形状は円形に近く、建物3では建物のほぼ中央と思われる位置で地床炉を検出しました。出土したこの時期の土器は、西日本系、東日本系、在地のものからなり、表面に赤彩を施すものもありました。



縄文時代中期後葉の竪穴建物

写真は、縄文時代中期後葉の竪穴建物です。形状は五角形以上の多角形が想定できます。建物の中央には石囲炉があり、炉の底面では焼土を検出しました。また、建物の柱穴を結ぶように巡る溝を確認しました。

